

ずっと、つづく支援を。



東日本大震災支援  
全国ネットワーク

2021年度 年次総会

審議資料

1. 2020年度 年次報告 案
2. 2020年度 収支決算 案
3. 2021年度 活動計画 案
4. 2021年度 収支予算 案
5. 2021年度代表世話人・世話団体・監事 改選案

2021年度 JCN年次総会  
審議資料1-1

ずっと、つづく支援を。



東日本大震災支援  
全国ネットワーク

2020年度 年次報告 案

[期間：2020年4月1日～2021年3月31日]

## 1. JCN とは

### <JCN の理念と役割>

JCN は、民間支援団体の連絡組織です

東日本大震災支援全国ネットワーク (JCN) は、2011 年 3 月に発生した東日本大震災における被災者・避難者への支援活動に携わる NPO、NGO、企業、ボランティアグループなどが参加する、セクターを越えた民間支援団体による全国規模の連絡組織です。

発災当初は、主に災害救援を目的に活動する団体の自発的な連絡機能として発足しましたが、今では、保健・医療・福祉・教育・まちづくり・観光・農漁業・文化・芸術・環境・情報・就労・雇用・提言・助言・法律等々、様々な分野において被災者・避難者を支援する団体に参加する、災害後における民間支援団体の総合的な情報発信組織として認知され、その社会的役割を担うまでになってきました。

つながりづくりで貢献します

JCN は、民間支援団体のネットワークづくりを通じて、被災者・避難者への支援活動の継続と、被災地の復旧・復興の一端を担い、日本の「いのち・くらしの再建」に寄与していきます。すべての活動の基軸に、次世代を見据えた「ネットワークづくり」を置き、支援団体間の「つながり」を促進しています。

### <JCN の沿革>

2011 年	
3 月	設立総会、暫定 ML「higashinohon」を開設、暫定ウェブサイトを開設
4 月	公式ウェブサイトを開設、公式メーリングリスト「jcn-main」及び「jcn-negai」の運用を開始 省庁との定例連絡会議を開始、支援状況マップ暫定版、ボランティアバス運行情報を公開、「ボランティアバスを運行するときのポイント」「東日本大震災・災害ボランティア・活動ガイドライン」を発行
5 月	第 1 回 現地会議 in 宮城 (仙台市青葉区) の開催
6 月	第 1 回 現地会議 in 岩手 (滝沢町)、第 1 回 現地会議 in 福島 (福島市) の開催
7 月	支援状況マップ公式版を公開、「週刊ボランティアみんなのチカラ」の収録開始 (J:COM 協働制作)、「災害ボランティア参加者の心のケアポイント集」「災害ボランティア活動における安全衛生のポイント集」発行
9 月	第 1 回 JCN 全体ミーティング (東京都千代田区) の開催
10 月	広域避難者支援状況リストを公開
11 月	第 2 回 現地会議 in 岩手 (北上市) の開催
12 月	第 2 回 現地会議 in 福島 (郡山市)、第 2 回 現地会議 in 宮城 (仙台市青葉区) の開催
2012 年	
1 月	「復興支援いいね! 事例集」を開設
2 月	第 3 回 現地会議 in 福島 (郡山市)、第 3 回 現地会議 in 宮城 (松島町) の開催
3 月	第 3 回 現地会議 in 岩手 (大槌町)、第 2 回 JCN 全体ミーティング (東京都千代田区)、第 1 回 広域避難者支援意見交換会 (東京都千代田区) の開催
4 月	広域避難者支援団体のネットワークづくりのための活動実態調査の実施、第 2 回 広域避難者支援意見交換会 (東京都千代田区) の開催、「支援にあらたな視点を ～生活不活発病を知ろう～」の発行、保養プログラム情報を公開
5 月	「除染作業への参加を考えているボランティアの方に知ってもらいたいこと」の発行。JCN 年次総会 (東京都千代田区) の開催
6 月	広域避難者支援ミーティング in 東海 (名古屋市) の開催
7 月	「世界防災閣僚会議 in 東北」サイドイベントへ出展、第 4 回 現地会議 in 岩手 (大船渡市)、広域避難者支援ミーティング in 近畿 (大阪市) の開催
8 月	第 4 回 現地会議 in 宮城 (仙台市)、広域避難者支援ミーティング in 山形 (山形市) の開催
9 月	ものづくり情報、被災地支援状況マップをバージョンアップ、保養プログラム情報の公開停止
10 月	英語版ウェブサイトをリニューアル、広域避難者支援ミーティング in 四国 (松山市) の開催
11 月	第 5 回 現地会議 in 岩手 (盛岡市)、第 4 回 現地会議 in 福島 (二本松市) の開催
12 月	第 5 回 現地会議 in 宮城 (仙台市)、広域避難者支援ミーティング in 中国 (広島市) の開催
2013 年	

1 月	全国交流会情報を公開
2 月	第 1 回 若手会議 in 岩手 (大船渡市)、広域避難者支援ミーティング in 九州 (福岡市) の開催
3 月	第 6 回 現地会議 in 岩手 (釜石市)、第 5 回 現地会議 in 福島 (いわき市)、第 6 回 現地会議 in 宮城 (石巻市)、広域避難者支援ミーティング in 東京 (新宿区)、広域避難者支援ミーティング in 北信越 (新潟市) の開催。 東北応援ビレッジの開催
4 月	社会福祉協議会における広域避難者支援に関わる実態調査の実施
5 月	ケース検討会 (岩手県・宮城県・福島県) の開始 第 1 回 ネットワーク推進会議 (千代田区)、JCN 年次総会 (千代田区) の開催
6 月	第 6 回 現地会議 in 福島 (南相馬市) の開催
7 月	第 7 回 現地会議 in 岩手 (遠野市)、第 2 回 広域避難者支援ミーティング in 東京 (港区)、第 1 回 広域避難者支援ミーティング・全国版 (千代田区) の開催
8 月	第 7 回 現地会議 in 宮城 (南三陸町)、第 2 回 広域避難者支援ミーティング in 中国 (広島市)、第 2 回 ネットワーク推進会議 (千代田区) の開催。社会福祉協議会における広域避難者支援に関わる実態調査報告書の発行
9 月	第 7 回 現地会議 in 福島 (会津若松市)、第 1 回 関係省庁定期協議 (港区) の開催。 ウェブサイト (日本語版) をリニューアル
10 月	第 8 回 現地会議 in 岩手 (大槌町) の開催
11 月	第 2 回 広域避難者支援ミーティング in 四国 (高知市)、第 3 回 広域避難者支援ミーティング in 東京 (中野区) を共催、第 8 回 現地会議 in 宮城 (岩沼市) の開催
12 月	第 8 回 現地会議 in 福島 (郡山市)、第 2 回 広域避難者支援ミーティング in 山形 (山形市) の開催

## 2014 年

1 月	第 9 回 現地会議 in 岩手 (北上市) を開催。第 2 回 関係省庁定期協議 (東京都港区) を開催
2 月	第 9 回 現地会議 in 宮城 (松島町) を開催
3 月	第 2 回 広域避難者支援ミーティング・全国版 (東京都千代田区) を開催 第 3 回 全体ミーティング (中央区) を開催 東北応援ビレッジ 2014 (東京都千代田区) を開催/Walk with 東北 プロジェクトを開始
4 月	第 2 回 広域避難者支援ミーティング in 東海 (名古屋市) を開催 第 3 回 関係省庁定期協議 (東京都港区) を開催
5 月	東北応援ビレッジ 2014 (東京都千代田区) を開催
6 月	広域避難者支援ミーティング in 関東 (東京都港区) in 九州 (福岡市博多区) を開催 JCN 年次総会 (東京都千代田区) を開催
7 月	第 4 回 関係省庁定期協議 (東京都港区) を開催
8 月	第 10 回 現地会議 in 岩手 (北上市) を開催
9 月	ウェブサイト (日本語版・英語版) をリニューアル/ボランティアバス運行情報の公開停止
10 月	広域避難者支援ミーティング in 北海道 (札幌市中央区) を開催 第 5 回 関係省庁定期協議 (東京都港区) を開催。第 10 回 現地会議 in 宮城 (気仙沼市) を開催
11 月	第 9 回 現地会議 in 福島 (いわき市) を開催

## 2015 年

1 月	第 10 回 現地会議 in 福島 (南相馬市) を開催
2 月	第 11 回 現地会議 in 宮城 (岩沼市) を開催 第 3 回 広域避難者支援ミーティング 全国版 (東京都千代田区) を開催
3 月	東北これから会議 2015 (東京都千代田区) を開催
4 月	タケダ・赤い羽根広域避難者支援プログラム キックオフ・ミーティングを開催
5 月	ケース検討会議 (宮城) 於：仙台市を開催
6 月	ケース検討会議 (福島) 於：福島市、ケース検討会議 (岩手) 於：北上市を開催。
7 月	広域避難者支援・ネットワーク推進会議 (千代田区) を開催。ケース検討会議 (宮城) 於：仙台市、ケース検討会議 (福島) 於：南相馬市を開催。
8 月	ケース検討会議 (岩手) 於：盛岡市を開催。福島県県外避難者 復興支援員 第 1 回研修 (千代田区) を開催。近畿避難者支援ミーティング (大阪市) を開催
9 月	JCN REPORT Vol.4 『生活再建』を発刊。タケダ・赤い羽根広域避難者支援プログラム 第 1 回研修 (岡山市) を開催。中国・四国避難者支援ミーティング (岡山市) を開催。

10月	第12回 現地会議 in 岩手(盛岡市)、第11回 現地会議 in 福島(南相馬)、第12回 現地会議 in 宮城(仙台市)を開催。ケース検討会議(福島) 於: 福島市を開催。タケダ・赤い羽根広域避難者支援プログラム 第1回研修 於: 東京を開催。東海避難者支援ミーティング 於: 名古屋市
11月	ケース検討会議(岩手) 於: 盛岡市、ケース検討会議(宮城)(仙台市)、ケース検討会議(福島)(福島市)を開催。東北避難者支援ミーティング 於: 仙台市を開催。福島県県外避難者 復興支援員 第2回研修(福島市)
12月	九州避難者支援ミーティング 於: 福岡市を開催。第12回 現地会議 in 福島を開催

## 2016 年

1月	ケース検討会議(福島) 於: 福島市を開催
2月	ケース検討会議(岩手)(釜石市)、ケース検討会議(宮城)(仙台市)を開催。第13回 現地会議 in 岩手(陸前高田市)、第13回 現地会議 in 宮城(名取市)。タケダ・赤い羽根広域避難者支援プログラム 第2回研修(大阪・東京)を開催
3月	JCN REPORT Vol.5 『東北から生まれる新しいチャレンジ』を発刊。福島県県外避難者 復興支援員 第3回研修(千代田区)、第4回全国広域避難者支援ミーティング(千代田区)を開催
4月	第1回福島ミーティングを開催(福島市)。タケダ・赤い羽根広域避難者支援プログラム報告会&キックオフミーティング(千代田区)、広域避難者地域活動サポート助成報告会(千代田区)を開催
5月	-
6月	2016年度年次総会開催。第1回岩手ミーティングを開催(大槌町) 第1回定期連絡会(千代田区)開催。
7月	関東避難者支援ミーティング(中央区)、沖縄避難者支援ミーティング(那覇市)、北海道避難者支援ミーティング(札幌市)を開催
8月	第2回福島ミーティングを開催(南相馬市)。JCN REPORT Vol.6 『つながりを活かす』を発刊。北陸避難者支援ミーティング(金沢市)、中・四国避難者支援ミーティング(岡山市)を開催。タケダ・広域避難者支援プログラム研修に参加。
9月	第2回岩手ミーティングを開催(大船渡市)。九州避難者支援ミーティング(熊本市)、東海避難者支援ミーティング(名古屋市)、東北避難者支援ミーティング(仙台)を開催。これからの広域避難者と支援に関するアンケート調査(自治体・社協)実施。
10月	近畿避難者支援ミーティング(大阪市)を開催。これからの広域避難者と支援に関するアンケート調査(避難者)実施。
11月	復興支援員研修(福島市)を開催。タケダ・広域避難者支援プログラム研修に参加。
12月	-

## 2017 年

1月	パンフレット「避難者とのかかわり～支援のカタチ～」を発行。
2月	第3回福島ミーティングを開催(福島市)。タケダ・広域避難者支援プログラム研修に参加。
3月	第3回岩手ミーティングを開催(盛岡市) 復興支援員研修(千代田区)、定期連絡会(第2回、第3回)、第5回全国避難者支援ミーティング(千代田区)を開催
4月	タケダ・赤い羽根広域避難者支援プログラム報告会&キックオフミーティング(千代田区)、広域避難者地域活動サポート助成報告会(千代田区)を開催
5月	-
6月	生活再建支援拠点・復興支援員基礎研修(千代田区)を開催
7月	タケダ・広域避難者支援プログラム研修に参加。
8月	生活再建支援拠点・応用研修(千代田区)を開催
9月	第14回 現地会議 in 岩手(陸前高田市)を開催。生活再建支援拠点・応用研修(大阪市)、個別研修(水戸市)を開催。
10月	第14回 現地会議 in 宮城(仙台市)を開催。
11月	第13回 現地会議 in 福島(富岡町)を開催。個別研修(京都市)を開催。検証フォーラム(仙台市)を開催。
12月	検証(広域避難者支援) グループインタビューを開催。タケダ・広域避難者支援プログラム研修に参加。

## 2018 年

1月	個別研修(高崎市)、復興支援員研修(千代田区)を開催。 JCN レポート Vol.8 「現地会議から考える震災復興」を発刊。
2月	現地会議 in 東京(港区)、現地会議 in 大阪(大阪市)を開催。ふりかえり会(福島市)を開催
3月	JCN ツアー「答えは東北にある」(岩手・宮城・福島)を開催。現地会議 in 東北「私が東北に描く未来」(仙台市)を開催。JCN レポート Vol.9 未来を切り拓く次世代を輩出する」を発刊。 地域体制強化検討研修(千代田区)を開催。第2回 JCN 復興サロン(千代田区)を開催
4月	タケダ・赤い羽根広域避難者支援プログラム報告会&キックオフミーティング(千代田区)を開催。
5月	JVOAD 全国フォーラム分科会「東日本大震災における広域避難者支援～想定されている大規模災害に向けて～」を開催 JVOAD 全国フォーラム分科会「復興の課題解決のための担い手支援」を開催 福島県生活再建支援拠点定期連絡会議(福島市)に出席。

6月	山形、秋田、千葉、京都、大阪の生活再建支援拠点等の訪問。
7月	現地会議 in 東北（陸前高田市）を開催。 北海道、広島、愛媛、宮崎の生活再建支援拠点等の訪問。県内関係者の連絡会議にオブザーバ参加。
8月	愛知、岡山の生活再建支援拠点等の訪問。
9月	個別研修（岡山）の開催。
10月	全国広域避難者支援ミーティング（千代田区）を開催。現地会議 in 東京（千代田区）を開催。
11月	JCN ツアー in 岩手、宮城、福島を開催。 復興支援員受託団体研修（千代田区）を開催。
12月	JCN レポート Vol.10「東日本大震災と担い手の思い①」を発行。 JCN サロン×結イレブン・寄付月間 2018 特別企画「ワカモノと支援とおカネの話」 JVOAD の勉強会で JCN ツアーの報告会を開催。 関西避難者支援ミーティング（大阪市）を開催。
2019 年	
1月	3.11 の今がわかる会議 in 名古屋（名古屋市）を開催。 JCN レポート Vol.11「東日本大震災と担い手の思い②」を発行。 県外避難者支援ヒアリング調査（沖縄・愛知・大阪・山形）を実施。個別研修（岡山）の開催。山形支援者のつどいで話題提供。
2月	3.11 の今がわかる会議 in 神戸（神戸市）を開催。 福島県生活再建支援拠点定期連絡会議（福島市）に出席。県外避難者支援ヒアリング調査（山形・茨城）を実施。 生活支援相談員心のケア研修（山形）の開催
3月	JCN レポート Vol.12「東日本大震災と担い手の思い③」を発行。 四国避難者支援ミーティング（高松市）、九州避難者支援ミーティング（熊本市）を開催。個別研修（岡山）の開催。
4月	多様な主体と行政の協働による復興支援活動の検証会議に参加
5月	JVOAD 全国フォーラム分科会「災害復興において担い手はいかに生まれてきたか～東日本大震災の経験から～」開催 多様な主体と行政の協働による復興支援活動の検証会議に参加 地域の体制強化検討会議（千代田区）を開催
6月	多様な主体と行政の協働による復興支援活動の検証会議に参加
7月	第1回 3.11 ユースダイアログ（大学の部）を明治学院大学で開催 第1回 3.11 ユースダイアログ（一般の部）を新宿区で開催 多様な主体と行政の協働による復興支援活動の検証会議に参加
8月	多様な主体と行政の協働による復興支援活動の検証会議に参加
9月	JCN レポート Vol.13「孤立・孤独を防止する地域力～被災者・避難者に寄り添い続けるまなざし～」を発刊 3.11 の今がわかる会議 in 東京（千代田区）を開催 3.11 の今がわかる会議 in 名古屋（名古屋市）を開催 多様な主体と行政の協働による復興支援活動の検証会議に参加 県外避難者支援事業「関係者会議（第1回）」（千代田区）を開催
10月	3.11 の今がわかる会議 in 大阪（大阪市）を開催 第2回 3.11 ユースダイアログ（一般の部）を渋谷区で開催 多様な主体と行政の協働による復興支援活動の検証会議に参加 県外避難者支援事業「復興支援員研修」「関係者会議（第2回）」（千代田区）を開催
11月	JCN ツアー in 岩手を開催 JCN ツアー in 宮城を開催 多様な主体と行政の協働による復興支援活動の検証会議に参加
12月	JCN ツアー in 福島を開催 第2回 3.11 ユースダイアログ（大学の部）を駒澤大学で開催 多様な主体と行政の協働による復興支援活動の検証会議に参加
2020 年	
1月	避難者支援ミーティング in 関東（千代田区）、避難者支援ミーティング in 京都（京都市）を開催 第1回避難者支援ミーティング in 岡山
2月	JCN レポート Vol.14「地域の賑わいを生み出す力～人と人との関係を紡ぎ出し、未来へつなげる～」を発刊 応急仮設住宅における官民連携事例のヒアリングのための訪問 多様な主体と行政の協働による復興支援活動の検証会議に参加 「新しい東北」交流会内の企画「多様な主体と行政の協働による復興支援活動の検証経過報告会」に参加 「避難者支援ミーティング in 沖縄」（那覇市）を開催。「広島・山口・島根3県合同ネットワーク会議」（広島市）に参加
3月	JCN レポート Vol.15「地域の未来づくりに挑戦する力～ワカモノたちが踏み出す一歩～」 多様な主体と行政の協働による復興支援活動の検証会議に参加 避難者支援ミーティング in 九州、岐阜避難者支援ミーティングを開催。秋田県広域避難者連絡会議に参加。

	全国広域避難者支援ミーティング (千代田区): 延期 県外避難者支援事業「関係者会議 (第3回)」(千代田区): 中止
4月	3.11_10年企画準備委員会の立ち上げ・準備委員会の開催 (以下不定期に9月まで実施)
5月	広域避難者支援活動・関係者オンラインミーティング (Zoom) 開催
6月	JCN 年次総会を開催
7月	多様な主体と行政の協働による復興支援活動の検証会議に参加
8月	多様な主体と行政の協働による復興支援活動の検証会議に参加 広域避難者支援活動・第1回関係者オンラインミーティング (Zoom) 開催
9月	3.11の今がわかる会議「～震災復興からの生活再建 ～生きづらさを抱える方へのまなざしとは～」を開催 多様な主体と行政の協働による復興支援活動の検証会議に参加 第20回広域避難者支援ミーティング in 東京に参加
10月	Voice from 3.11 実行委員会の立ち上げ・委員会の開催 (以下不定期に開催) 3.11の今がわかる会議「被災地域の賑わいづくり ～地域に誇りを持ち、地域の魅力を活かすとは～」を開催 3.11の今がわかる会議「東日本大震災からの10年 ～これまでとこれからの地域を歩む人々の思いとは～」を開催 多様な主体と行政の協働による復興支援活動の検証会議に参加 広域避難者支援活動・関係者オンライン説明会 (Zoom) 開催
11月	3.11 ユースダイアログ@東京都立大学を開催 Voice from 3.11_WEB サイトをリリース (ことばの募集開始) JCN バーチャルツアー in 岩手を開催 多様な主体と行政の協働による復興支援活動の検証会議に参加 第1回復興支援員研修 (オンライン) 開催
12月	JCN バーチャルツアー in 宮城を開催 JCN バーチャルツアー in 福島を開催 3.11 ユースダイアログ@鶴見大学を開催 3.11 ユースダイアログ@金城学院大学を開催 多様な主体と行政の協働による復興支援活動の検証会議に参加 広域避難者支援活動・第2回関係者オンラインミーティング (Zoom) 開催 第2回復興支援員研修 (オンライン) 開催

## 2021年

1月	3.11 ユースダイアログ (中高生向け) @荒川区社協を開催 多様な主体と行政の協働による復興支援活動の検証会議に参加 Voice from 3.11 つながりの集い in 七ヶ浜を開催 全国広域避難者支援ミーティング (Zoom) 開催
2月	Voice from 3.11 みんなの集いを開催 多様な主体と行政の協働による復興支援活動の検証会議に参加 3.11 みえネットミーティング2021参加 沖縄県における避難者支援連携体制強化会議 (オンライン) 参加 広島・山口・島根3県ネットワーク会議参加 福島県外避難者への相談・交流・説明会事業 第2回定期連絡会議 (オンライン) 参加
3月	Voice from 3.11 つながりの集い in 釜石を開催 Voice from 3.11 つながりの集い in 陸前高田を開催 Voice from 3.11 つながりの集い in 南三陸 (動画を公開) Voice from 3.11 それぞれの集い (被災・地震) を開催 Voice from 3.11 それぞれの集い (広域避難) を開催 広域避難者支援活動・第3回関係者オンラインミーティング (Zoom) 開催 秋田県広域避難者支援連絡会議 (秋田市・オンライン) 開催 長野県災害時支援ネットワーク幹事会 (オンライン) 参加

**【組織概要】(2021 年 03 月 31 日現在)**

組織名称

東日本大震災支援全国ネットワーク (JCN)  
Japan Civil Network for Disaster Relief in the East Japan

参加団体数

577 団体 (うち参加団体 338 団体、協力団体 239)  
※2020 年度の増減は入会 1 会員(1)、退会 13 (会員 9、協力 4)

代表世話人

栗田暢之 (NPO 法人 レスキューストックヤード)  
山崎美貴子 (東京災害ボランティアネットワーク)

世話団体

NPO 法人 シーズ・市民活動を支える制度をつくる会／社会福祉法人 中央共同募金会／東京災害ボランティアネットワーク／認定 NPO 法人 日本 NPO センター／日本生活協同組合連合会／公益社団法人 日本青年会議所／日本赤十字社／公益財団法人 日本 YMCA 同盟／「広がれボランティアの輪」連絡会議／公益社団法人 ユニバーサル志縁センター／認定 NPO 法人 レスキューストックヤード／特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム

監事

齊藤誠 (齊藤弁護士事務所) / 脇坂誠也 (脇坂税務会計事務所)

事務局

東京都千代田区大手町 2-1-1 新大手町ビル 245 JNPOC 気付  
TEL.03-3277-3636 FAX.03-6701-7332 URL.<http://www.jpn-civil.net/>



## 2. 被災地支援活動の実施状況

### 【2020 年度当初の活動の方向性】

東日本大震災は、10 年目を迎えるにあたり、復興が進んでいる側面がある一方で、災害・復興公営住宅の見守り、子どもの支援、移動支援など、課題も多く残されている。これらの課題や取組はこれからの日本が迎える課題でもあり、全国で東日本大震災の課題を考えることが必要になっている。そのために、東日本大震災の今の姿や課題を全国に発信し、全国の知見を東日本大震災に繋げることを目的とする。また、東日本大震災を過去の震災としないため、若い世代の声を次の世代につなぐ活動や機会の場を創出する。

- ・東日本大震災の課題を全国で考える場を作り、全国の知見を東日本大震災に繋がられている
- ・東日本大震災における官民連携などを検証することで、これからの復興支援における知見を見いだしている
- ・若い世代が東日本大震災について語ることで、同世代の若者が東日本大震災に目を向け、支援のきっかけとなっている

### (1) 2020 年度の活動にあたって

新型コロナウイルスの影響により、被災地では、特に 10 年を迎えるということで様々なイベントや追悼行事が予定されていたが、その多くは中止や延期にならざるを得ない状況となった。また、被災者にとっては、外出を制限されることによる孤立化の懸念やコロナによって困っているという声をあげにくいという状況が生み出された。被災者、支援者にとっても非常に厳しくも、はがゆい一年となった。JCN についても、3.11 会議、ツアー、大学でのユースダイアログについては対面で人が集まるという特性上、大きな影響を受け、オンラインでの開催となった。ただし、全国から参加できるというオンラインならではの発見もあった。

### (2) 3.11 の今がわかる会議

昨年までは地域別に対面で開催していたが 2020 年度はオンラインでテーマ別に 3 回開催した。なお、登壇者のみなさまには宮城県仙台市に集まっていただき、配信を行った。(復興庁コーディネート事業)

※詳細内容は WEB を参照

図表 1. 2020 年 3.11 の今がわかる会議の開催概要

開催時期	内容	参加者数
2020 年 9 月	<p>&lt;テーマ①&gt; 震災復興からの生活再建 ～生きづらさを抱える方へのまなざしとは～ &lt;登壇者&gt; 阿部 知幸 氏 (特定非営利活動法人フードバンク岩手 事務局長) 平井 知則 氏 (一般社団法人 パーソナルサポートセンター 執行役員) 長谷川 秀雄 氏 (特定非営利活動法人 いわき自立生活センター 理事長) 朝比奈 ミカ 氏 (中核地域生活支援センターがじゅまる センター長) コーディネーター：栗田 暢之 (東日本大震災支援全国ネットワーク 代表世話人) &lt;内容&gt; 阿部氏からは、「なぜ被災地と呼ばれるところでは生活再建する事ができない人がいるのか？」という投げかけをもとに、現状の支援制度は「被災者生活再建支援法」の名前になっているが、住宅支援が主で、人を救う制度になっていない等の議論を登壇者と議論を深めた。 平井氏からは被災者支援・復興支援で培ったノウハウや仕組みが「その後の大規模災害で活かしているか?」、「平時の支援に埋もれてないか?」、「あの時の想いを現在ものこせているか?」という 3 つの投げかけのもと、登壇者と議論を深めた。 長谷川氏からは「今後の 10 年をどう考えるか?」という課題の提示があり、NPO 等が受け身でなく、積極的に発信・提言して必要性と「人への復興」にフォーカスを充てるべきであるという話があった。</p>	90 名
2020 年 10 月	<p>&lt;テーマ②&gt; 被災地域の賑わいづくり ～地域に誇りを持ち、地域の魅力を活かすとは～</p>	93 名

	<p>&lt;登壇者&gt;                  吉浜 知輝 氏 (宮古市地域おこし協力隊)                  成宮 崇史 氏 (気仙沼まち大学運営協議会)                  谷 咲月 氏 もーもーガーデン by 一般社団法人ふるさとと心を守る友の会 代表理事)                  山口 覚 氏 (津屋崎ランチ LLP 代表)                  コーディネーター：富田 愛 (東日本大震災支援全国ネットワーク 岩手担当)</p> <p>&lt;内容&gt;                  吉浜氏からは「地域との多様な働き方、関わり方を推進するために必要な事とは？」という課題の提示があり、2拠点居住や副業に関すること、また、地域で高められるスキルの機会についての話があった。                  成宮氏からは「地域の中で新しいチャレンジが生まれやすい土壌づくりはどうやってつくっていったらいいか？」という課題提示あり、まちがこのさきも持続できるよう、新しいことにチャレンジしようというエネルギーや多くの人を巻き込んでいくことの必要性について登壇者と議論を深めた。                  谷氏からは「どなたでも、いつでも、遠くからでも、地域の保全と発展に関わる方法にはどのようなものが考えられるでしょうか？」とう投げかけがあった。大熊町という特性上、現地の活動は限られるため、遠方からも地域を保全していく方法に関するアイデアなどの提示があった。</p>	
<p>2020 年 10 月</p>	<p>&lt;テーマ③&gt;                  東日本大震災から 10 年～これまでとこれからの地域を歩む人々の思いとは～</p> <p>&lt;登壇者&gt;                  中野 圭 氏 (特定非営利活動法人 wiz 代表理事・特定非営利活動法人いわて連携復興センター理事)                  伊藤 聡 氏 (一般社団法人三陸ひとつなぎ自然学校 代表理事)                  吉澤 武彦 氏 (一般社団法人日本カーシェアリング協会 代表理事)                  吉田 恵美子 氏 (特定非営利活動法人ザ・ピープル 理事長)                  コーディネーター：栗田 暢之 (東日本大震災支援全国ネットワーク 代表世話人)</p> <p>&lt;内容&gt;                  登壇者の支援活動や思いを過去・現在・未来に分けて話をしていた。中野氏からは、「支援活動の原点は、思い出の場所がなくなったことである」という話をいただき、活動を通じて自身の価値観の変遷についての話があった。                  伊藤氏からは「津波で死を覚悟したことや住み慣れたまちが一瞬で消え去る経験が大きい」という話をいただき、「たくさんの方が支援に来てくれたことが自分を救ってくれた」という話があった。支援活動の転換期は、一人の高校生との出会いであったという話があった。                  吉澤氏からは師匠から「カーシェアリングをやったらどうや」と言われたことがきっかけであったとの話があった。石巻の人が支援される側から支援する側になれるようになることを目指して活動しているとの話があった。</p>	<p>91 名</p>

延べ 3 回 274 名

表 1. 2020 年度の 3.11 の今がわかる会議の実施状況



**(3) 被災地ツアー (JCN バーチャルツアー)**

全国から支援者を募り、現地に訪問することでできなかったため、訪問予定だった団体を事前に取材し、動画を制作した。バーチャルツアー当日は動画をオンラインで視聴していただくとともに、取材した団体の一部の方に配信場所にお越しいただき、画面越しの参加者に東北の今について発信していただいた。(復興庁コーディネート事業)

※詳細内容は WEB を参照

図表 2. JCN ツアーの開催状況

開催時期・県	訪問先	参加者数
2020年11月 岩手	<p>&lt;動画取材先&gt;</p> <p>熊谷 克郎 氏 (カレーと手作りおやつフライパン/陸前高田市)</p> <p>中野 圭 氏 (中野えびす丸/大船渡市)</p> <p>中村 一郎 氏 (三陸鉄道株式会社/宮古市)</p> <p>川原田 洋子 氏 (おおつちおばちゃんくらぶ/大槌町)</p> <p>伊藤 聡 氏 (一般社団法人三陸ひとつなぎ自然学校/釜石市)</p> <p>多田 一彦 氏 (NPO 法人遠野まごころネット/遠野市)</p> <p>&lt;ツアー当日登壇者&gt;</p> <p>中野 圭 氏 (中野えびす丸/大船渡市)</p> <p>中村 一郎 氏 (三陸鉄道株式会社/宮古市)</p> <p>伊藤 聡 氏 (一般社団法人三陸ひとつなぎ自然学校/釜石市)</p> <p>&lt;概要&gt;</p> <p>テーマは「3.11 からの 10 年。これからの岩手で生きていく人々との関わり方」。</p> <p>岩手の復興に関り続けている人々を訪問し、彼らが見てきた 10 年とこれからへの想いを辿るバーチャルツアーです。今回、インタビューした 6 名の方から一様に出てきたのが「繋ぐ・繋がる」という言葉であった。このツアーに参加することで「〇〇さんに会いたい」「〇〇さんの活動を応援したい、参加したい」また「岩手に遊びに行きたい」など、ご参加いただく皆さんと岩手との関わり方を、みつけていただいた。</p>	77 名
2020年12月 宮城	<p>&lt;動画取材先&gt;</p> <p>吉澤 武彦 氏 (一般社団法人 日本カーシェアリング協会 代表理事)</p> <p>中川 政治 氏 (公益社団法人 3.11 みらいサポート 専務理事)</p> <p>工藤 真弓 氏 (一般社団法人 復興みなさん会 理事)</p> <p>成宮 崇史 氏 (気仙沼まち大学運営協議会 事務局)</p> <p>佐藤 賢 氏 (NPO 法人 ピースジャム 代表)</p> <p>&lt;ツアー当日の登壇者&gt;</p> <p>吉澤 武彦 氏 (一般社団法人 日本カーシェアリング協会 代表理事)</p> <p>中川 政治 氏 (公益社団法人 3.11 みらいサポート 専務理事)</p> <p>成宮 崇史 氏 (気仙沼まち大学運営協議会 事務局)</p> <p>佐藤 賢 氏 (NPO 法人 ピースジャム 代表)</p> <p>&lt;概要&gt;</p> <p>テーマは、「あのときの風景と今。これからの宮城との関り方を考える」。</p> <p>復興と言っても、地域や人、立場によってさまざまな見方、解釈があります。10 年目を迎えようとしている宮城の今を、10 年前の映像と比較しながら「見て」いただき、そこで活動する方の声を「聞き」、新聞や報道では伝わらない熱量や空気を感じて、感じたことを「話して」いただききたい。宮城の今を「知り」、今後の関り方を考える機会となった。</p>	62 名
2020年12月 福島	<p>&lt;動画取材先&gt;</p> <p>青木 淑子 氏 (富岡町 3.11 を語る会 代表)</p> <p>和泉 亘 氏 (なみえファーム 代表)</p>	83 名

谷 咲月 氏 (もーもーガーデン by ふるさとと心を守る友の会 代表)  
 平山 勉 氏 (ふたばいんふお / 双葉郡未来会議 代表)  
 稜川 正道 氏  
 ナレーション: Jack AMANO

<ツアー当日登壇者>  
 青木 淑子 氏 (富岡町 3.11 を語る会 代表)  
 和泉 亘 氏 (なみえファーム 代表)  
 谷 咲月 氏 (もーもーガーデン by ふるさとと心を守る友の会 代表)  
 平山 勉 氏 (ふたばいんふお / 双葉郡未来会議 代表)

<概要>  
 今も一部帰還困難区域が残る国道 6 号線を北上し、その風景と各自治体で活動している団体の 10 年の歩みを風景とインタビューで伝え、現状を理解してもらう内容となった。改めて、訪れてほしい魅力的な人・場所を紹介し、今後足を運んでもらう機会となった。

延べ 3 回 222 名

表 2. 2020 年度の JCN バーチャルツアーの実施状況



岩手ツアーの様子



宮城ツアーの様子



福島ツアーの様子

**(3) 3.11 ユースダイアログ**

2020 年度は、関東の大学 2 校、愛知県の大学 1 校、中高生向けに 1 回開催した。開催にあたっては、東京ボランティア・市民活動センター、東京災害ボランティアネットワーク、NPO 法人レスキューストックヤードとの共催のもと開催した。また、中高生向けの開催にあたっては、社会福祉法人荒川区社会福祉協議会にも共催団体として加わっていただき開催した。大学では学校の授業でオンラインにて実施した。また、開催にあたっては、事前（1 週前）の授業で東日本大震災やユースダイアログの趣旨など伝え、3.11 ユースダイアログの当日が実りあるよう工夫した。登壇者には、被災時の出来事、被災当時感じていたこと、大変だったことや辛かったこと、東日本大震災がこれまでの人生に与えた影響、同世代の若者に伝えたいことなどについて、お話をいただいた。（復興庁コーディネート事業）

※詳細はプライバシーの観点から割愛。概要は WEB に掲載

なお、中高生向けのユースダイアログに参加した高校の先生から動画を授業で使いたいとの要望があり、後日、荒川区社会福祉協議会が出前授業を実施している。

表 3. 3.11 ユースダイアログ開催状況

開催時期	登壇者	参加者数
2020 年 11 月 (大学の部)	3.11 ユースダイアログ (於：東京都立大学) <登壇者> ・星幸実さん (宮城県三陸町で被災、現在は埼玉県在住) ・石井和貴 (福島県富岡町で被災、現在は同県いわき市在住) ・コーディネーター： 福田信章 (JCN 世話団体・東京災害ボランティアネットワーク)	34 名
2020 年 12 月 (大学の部)	3.11 ユースダイアログ (於：金城学院大学) ・久保田海世さん (岩手県田老町で被災、現在は宮城県在住) ・渥美藍さん (福島県郡山市で被災、現在は兵庫県在住) ・コーディネーター：富田愛 (JCN 岩手担当)	34 名
2020 年 12 月 (大学の部)	3.11 ユースダイアログ (於：鶴見大学) <登壇者> ・川崎杏樹さん (岩手県釜石市で被災、現在も同市に在住) ・志賀風夏さん (福島県南相馬市で被災、現在は同県川内村に在住) ・コーディネーター：北村育美 (JCN 福島担当)	69 名
2021 年 1 月 (中高生の部)	3.11 ユースダイアログ (於：荒川区社会福祉協議会) <登壇者> ・太田夢さん (岩手県大槌町で被災、現在は同県釜石市に在住) ・永沼悠斗さん (宮城県石巻市で被災、現在も同市に在住) ・コーディネーター：加納 佑一氏 (東京ボランティア・市民活動センター)	22 名

延べ 4 回 159 名

### 3. 広域避難者支援活動の実施状況

#### 【2020 年度当初の活動の方向性】

広域避難者支援に関わる支援団体を中心に、避難先の自治体や社協をはじめとした専門機関、ボランティア団体、地域コミュニティ等により、地域ごとの避難者支援の体制構築や強化を進めていく。

そのためにも、地域の実情を様々な視点から把握することとあわせて、各地の核となる支援団体と連携して、これからの広域避難者支援を考える場づくりを各地で展開する。

#### (1) 自主事業

各地の避難者支援に関わる人たちとともに、各地の避難者の声や心情を学び、多様な観点からの避難者支援のことを学び、お互いに話し合い、「避難者ひとりひとりのことを考える」全国避難者支援ミーティングを開催しました。

##### <実施概要>

- ・日時：2021 年 1 月 13 日（水） 13：30～16：30
- ・Zoom によるオンライン会議
- ・参加者：約 70 名
- ・プログラム概要

基調報告「避難者の気持ちや心情を知る」

話題提供：311 当事者ネットワーク HIRAETH（ヒラエス）澤上幸子氏、藤本昭則氏

リレートーク「避難者・避難者支援、10 年目の現状」

避難者からの相談対応について／菊池 邦子氏（愛知県被災者支援センター／CSW）

避難者を継続的に取材する中で見えてきたこと／吉田千亜氏（フリーライター）

避難者に寄り添ってきた身近な関わり／関根仁美氏（鷺宮都営住宅自治会）

原発避難者の訴訟等について／福田健治氏（SAFLAN）

広域避難者実態調査の結果／斉藤容子氏（関西学院大学災害復興制度研究所主任研究員）

#### (2) 福島県「県外避難者支援事業運営業務」

##### ①地域巡回員の配置

地域ごとに避難者支援の制度や体制などには違いもあり、避難が長期化する中で、各地の実情の把握とそれに合わせた体制づくりを考えていく必要がある。そこで、各地で避難者支援に取り組む民間団体とともに、今後の各地の体制づくりを検討する機会を設けました。

- ・日時：2020 年 5 月 13 日（水）13：30～15：30
- ・Zoom によるオンライン会議
- ・参加者：23 名（各地の支援関係者 16 名、福島県 2 名、JCN 5 名）

会議の結果を踏まえて、以下の団体に地域巡回員を依頼しました。

あきたパートナーシップ／いわて連携復興センター／ふうあいねっと／山梨県内避難者と支援者を結ぶ会／広域避難者支援連絡会 in 東京／石川県災害ボランティア協会／レスキューストックヤード／和／まるっと西日本／とっとり震災支援連絡協議会／ほっと岡山／ひろしま避難者の会アスチカ／えひめ 311 ぶくおか市民ネット／うみがめのたまご 311 ネットワーク／福島避難者のつどい沖縄じゃんがら会

地域巡回員には、3つの役割を依頼しました。

- i) 調査活動 / ii) 定期的な情報交換 / iii) 地域の会議の企画運営

##### ②研修等の開催

###### i) 関係者会議の開催

全国の状況把握、今後の具体的な対策等を話し合うために、地域巡回員などが参加する会議「関係者会

議」を開催しました。これらの会議を通じて、各地の避難者支援の最新の状況を共有することや、地域巡回員同士の認識を深めることができました。

開催日	内容等
2020/08/21	zoom を使ったオンライン会議 内容：地域巡回員の役割、今後の事業展開（オンライン会議・避難者支援連携強化会議等）
2020/09/14	zoom を使ったオンライン会議（オンライン情報交換会） 内容：第 20 回広域避難者支援ミーティング in 東京への参加を通じて、支援団体等と情報交換を実施
2020/11/04	zoom を使ったオンライン会議 内容：避難者支援連携強化会議の企画および進め方に関する説明
2020/12/16	zoom を使ったオンライン会議 内容：各地域の課題／避難者支援連携強化会議の実施見込み
2021/03/17	zoom を使ったオンライン会議 内容：避難者支援連携強化会議の実施結果の共有／今後の事業展開

## ii) 復興支援員研修

他地域において活動している復興支援員の取り組み状況や事例の共有、事業に対する認識や目線合わせをする必要性なども踏まえた研修を実施しました。

研修を通じて、避難者の状況を多角的に理解すること、他地域の復興支援員の取り組みを知ることができ、自らの活動を客観的に見直す機会となりました。こういった研修を通じて、日々の活動と避難者の見守りを充実することにつながっています。

開催日	内容等
2020/11/12	zoom を使ったオンライン会議 【講義 1】『電話相談から見る避難者が抱える課題の傾向と経年変化』（案） 講師：遠藤智子氏（一般社団法人 社会的包括サポートセンター事務局長） 【講義 2】『市町村における避難者支援の実態～茨城県内を例として～』（案） 講師：原口弥生氏（茨城大学 准教授／ふうあいねっと代表） 【グループディスカッション】進行：JCN
2020/12/09	zoom を使ったオンライン会議 【講義 1】『コミュニティ・人とのつながりと避難者支援』（案） 講師：原田峻氏（金城学院大学 人間科学部 コミュニティ福祉学科 講師） 【講義 2】『地域の居場所づくり等の実践とその効果』（案） 講師：菅野道生氏（岩手県立大学岩手県立大学 社会福祉学部 准教授） 【グループディスカッション】進行：JCN

## ③避難者支援連携強化会議の実施

各地域において支援の担い手となる（なりうる）自治体や関係機関等が参加し、地域において、避難者支援に係る課題や今後求められる機能、役割などを話し合う機会を設け、社会資源との連携を強化につなげました。

これらの会議を通じて、下記の事項が成果として考えられます。

- ・避難者の置かれている状況、または支援の紹介を通じて、参加者に「避難者に対する理解醸成」につなげることができた。
- ・様々な取り組み事例、話題提供を通じて、参加者それぞれの経験や専門スキルが避難者支援にも役立つこと、具体的な支援のイメージを共有することができた。
- ・会議の準備、または会議の実施を通じて、それぞれ参加者の置かれている状況や考えなどを把握し、参加

者間で共有することができた。

表 2. 2020 年度会議等の開催状況

開催日	地域	目的
2021/02/02	三重県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 三重県内の避難者支援に関わる民間支援団体が、現状や今後の取組等について共有する</li> </ul> <b>【311 みえネットミーティング 2021】</b> と共同開催
2021/02/18	沖縄県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5 年間の取り組みを振り返り、これからの 5 年先、10 年先に向けた支援と今後の災害への対策を検討</li> </ul> <b>【拡大版 避難者支援のための地域福祉ネットワーク会議】</b> と共同開催
2021/02/24	広島県・山口県・島根県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年度内の事業結果を共有し、次年度の展開する</li> </ul> <b>【広島・山口・島根 3 県合同ネットワーク会議】</b> と共同開催
2021/03/13	長野県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 長野県や山梨県における避難者の状況や対応状況の共有</li> <li>・ 今後の避難者支援への関わり方について検討</li> </ul> <b>【長野県災害時支援ネットワーク幹事会】</b> と共同開催
2020/03/24	秋田県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 震災 10 年の節目、今後の避難者支援の方向性を確認</li> </ul> <b>【秋田県広域避難者連絡会議】</b> と共同開催



## 4. 情報発信事業の実施状況

### JCN レポート

1号発刊予定であったが、予算ならびに後述の Voice from 3.11 の活動に発信活動を集約したため、発刊にいたっていない。

### 10年企画

東日本大震災の発災から10年目を迎える2020年度において、他団体と連携して、「Voice from 3.11」のプロジェクトの立ち上げに参画した。被災された方、避難されている方、支援やボランティアとして関わっている（関わっていた方）の生の声を多く集め、発信する活動を実施した。また、集まったことばから大切なことを紡ぎ出し後世に残すことで、東日本大震災の意義について考える。同プロジェクトは実行委員会形式で運営され、JCNは準備委員会から関わった。活動内容は、次の3つである。「ことばの集い」「みんなの集い」「つながりの集い」。(自主事業)

#### (1) ことばの集い

WEBやヒアリングを通じて、被災された方、避難されている方、支援やボランティアとして関わっている（関わっていた方）の生の声を多く集め、WEB上でことばを発信する活動を行った300近くのことばが集まった。



#### (2) みんなの集い

「ことばの集い」で集まったことばの中から、いくつかを選び、ことばの朗読と登壇者とともにその「ことば」を噛みしめる集いを開催した。また、集まった「ことば」をさらに深めるために、「それぞれの集い～津波・地震～」と「それぞれの集い～広域避難～」を開催し、登壇者と対話で私たちが考え続ける問いを探った。

表1. 「みんなの集い」「それぞれの集い」の開催状況

開催時期	登壇者	参加者数
2021年2月	<テーマ> みんなの集い「ことばの集いから見えてきた被災者の声」 <登壇者> ・香月昂飛（宮城県石巻市） ・志賀風夏（福島県川内村） ・芳賀正彦（NPO 法人吉里吉里国） ・岡田めぐみ（むさしのスマイル） ・澤上幸子（311 当事者ネットワーク ヒラエス） ・藤本昭則（311 当事者ネットワーク ヒラエス） ・葛巻徹（副実行委員長：いわて連携復興センター） ・市村高志（副実行委員長：とみおか子ども未来ネットワーク） ・栗田暢之（実行委員長：東日本大震災支援全国ネットワーク） ・コーディネーター：富田愛（いわて連携復興センター）	約100名
2021年3月	<テーマ> それぞれの集い「ことばから紡ぐこれから～地震・津波被災～」 <登壇者> ・川崎杏樹さん（いのちをつなぐ未来館） ・三浦友幸さん（一般社団法人プロジェクトリアス）	約50名

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高橋吏佳さん (南三陸町社会福祉協議会)</li> <li>・馬目一浩さん (浄土宗福島教区浜通り組青年会)</li> <li>・池本修悟さん (公益社団法人ユニバーサル志縁センター)</li> </ul> コーディネーター：富田愛 (Voice from 3.11 実行委員)	
2021年3月	<テーマ> それぞれの集い「ことばから紡ぐこれから～広域避難～」 <登壇者> <ul style="list-style-type: none"> <li>・荒木明彦さん (大学生/福島県富岡町から東京へ避難)</li> <li>・佐久間香里さん (はみんぐ Bird/郡山対話の会)</li> <li>・はっとりいくよさん (311 当事者ネットワークヒラエス)</li> <li>・森本佳奈さん (NPO 法人レスキューストックヤード)</li> <li>・コーディネーター 津賀高幸 (Voice from 3.11 実行委員会)</li> </ul>	約 50 名
		延べ 3 回 約 200 名

### (3) つながりの集い

新型コロナウイルスの影響により人との接触が制限され、改めて人と人のつながりや対話の大切さが見直されている中、被災した地域とそこに関わった人をつなぎなおし、お互いが元気になる場をオンラインを通じて作りだした。開催地域は、岩手県 (宮古、釜石、陸前高田)、宮城県 (七ヶ浜、南三陸町)、福島県 (富岡町) で実施した。

表 2. つながりの集い開催状況

開催時期	概要
2021年1月11日	つながりの集い in 七ヶ浜 <企画・運営> <ul style="list-style-type: none"> <li>・NPO 法人レスキューストックヤード</li> <li>・「ボランティアきずな館」や「きずなハウス」、仮設店舗七の市商店街やきずな工房、地元の漁師さんなど地元の方々</li> </ul>
2021年3月6日	つながりの集い in 釜石 <企画・運営> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Voice from 3.11 つながりの集い in 釜石 実行委員会 (釜石市社会福祉協議会、一般社団法人三陸ひとつなぎ自然学校、一般社団法人三陸駒舎、NPO 法人いわて連携復興センター)、</li> <li>・Voice from 3.11 実行委員会</li> </ul>
2021年3月7日	つながりの集い in 陸前高田 <ul style="list-style-type: none"> <li>・Voice from 3.11 つながりの集い in 陸前高田実行委員会 (NPO 法人パクト・認定 NPO 法人桜ライン 311・陸前高田市社会福祉協議会・NPO 法人いわて連携復興センター)</li> <li>・Voice from 3.11 実行委員会</li> </ul>
2021年3月10日	つながりの集い in 南三陸町 <企画> <ul style="list-style-type: none"> <li>・南三陸町社会福祉協議会</li> </ul> ※ビデオレターによる町民のことばを発信
2021年3月23日	つながりの集い in 富岡町 <企画・運営> <ul style="list-style-type: none"> <li>・富岡町社会福祉協議会</li> <li>・Voice from 3.11 実行委員会</li> </ul>

## 5. 事務局運営の実施状況

### 5-1 目的

- ①被災地や広域避難者支援活動が円滑に行われるように事務の効率化を図る。
- ②被災地支援・広域避難者支援の後方支援を行い、総合的な情報発信を行う。

### 6-2 実施事業

- ①参加団体の入退会手続きを都度実施した。
- ②JCN の活動状況や現地の状況をウェブページで随時更新した
- ③メーリングリストのメールアドレス変更など実施した。
- ⑤世話団体会を年 5 回開催した。
- ⑥毎月会計業務を実施した。
- ⑦委託事業や助成金申請のサポートを実施した。
- ⑧組織の基盤強化のために日本政策金融公庫より借入を行った。

### 6-3 事業成果

- ・参加団体の情報等を整理し、リスト化を実施した。
- ・委託事業や助成金の申請や報告を適正に実施した。
- ・財務面から組織の安定化を図った。

### 6-4 体制

杉村郁雄（事務局／被災地支援担当／広域避難者支援担当と兼務）  
津賀高幸（事務局／広域避難者支援担当と兼務）  
金子和巨（事務局／広域避難者支援担当と兼務）  
佐伯まり（会計・総務担当）

## 6. 助成・寄付者一覧

---

下記の団体、企業、個人の皆様から助成・寄付を頂戴いたしました。ご支援に対し、改めて感謝を申し上げます。※ 2020 年 4 月 1 日から 2021 年 3 月 31 日までにご協力いただいた方々を掲載しています。

**【助成】**

復興庁 様

ずっと、つづく支援を。



東日本大震災支援  
全国ネットワーク

2020年度 収支決算 案

[期間：2020年4月1日～2021年3月31日]

		東日本大震災支援全国ネットワーク (JCN)	
2020年度貸借対照表		2021年3月31日現在	
科目		金額 (単位:円)	
<b>I. 資産の部</b>			
1. 流動資産			
	現金預金		
	現金		
	預金	6,551,133	
	未収入	11,437,518	
	仮払金		
	前払金		
	棚卸資産		
	流動資産合計		17,988,651
2. 固定資産			
	固定資産合計		0
資産合計			17,988,651
<b>II. 負債の部</b>			
1. 流動負債			
	未払金	5,169,987	
	未払金消費税・法人税	463,500	
	前受金		
	預り金	118,849	
	短期借入金		
	流動負債合計		5,752,336
2. 固定負債			
	長期借入金	11,336,000	0
	固定負債合計		11,336,000
負債合計			17,088,336
<b>III. 正味財産の部</b>			
	前期繰越正味財産		2,065,579
	当期正味財産増減額		-1,165,264
	正味財産合計		900,315
負債及び正味財産合計			17,988,651

## 東日本大震災支援全国ネットワーク (JCN)

2020年度 決算報告試案 (期間：2020年4月1日～2021年3月31日)

<b>【収入】</b>	24,003,180
1. 寄付収入	0
2. 助成金収入	10,050,000
3. 事業収入	13,829,518
4. その他収入	123,662
<b>【支出】</b>	25,168,444
(1) 人件費	10,770,000
(2) 事務所費	930,000
(3) 通信運搬費	417,607
(4) 旅費交通費	1,503,098
(5) 消耗品費	173,426
(6) 会議費	271,130
(7) 外注費	8,562,753
(8) 支払手数料	360,237
(9) 謝金	1,417,141
(10) 租税公課	463,500
(11) 法定福利	83,241
(12) 雑費	216,311
<b>【収支】</b>	
<b>【経常収入 (a)】</b>	24,003,180
<b>【経常支出 (b)】</b>	25,168,444
経常収支差額 (a-b)	-1,165,264
前期繰越金	2,065,579
収支差額	-1,165,264
次期繰越金	900,315



## 東日本大震災支援全国ネットワーク (JCN)

2020年度 収支報告明細試算 (期間: 2020年4月1日~2021年3月31日)

	2020年度予算		2020年度決算試算	
	予算	実績	実績	予算比
<b>【収入】</b>	<b>36,818,000</b>	<b>24,003,180</b>		<b>65%</b>
1. 寄付収入	100,000	0		0%
企業	-	-		-
NPO等団体	-	-		-
一般個人	100,000	-		0%
その他	-	-		-
2. 助成金収入	14,938,000	10,050,000		67%
赤い羽根福祉基金	-	-		-
復興庁	14,938,000	10,050,000		67%
その他	-	-		-
3. 事業収入	21,780,000	13,829,518		63%
福島県 (受託)	21,780,000	13,829,518		63%
タケダ赤い羽根 (受託)	-	-		-
ろうきん (受託)	-	-		-
その他	-	-		-
4. その他収入	-	123,662		-
<b>【支出】</b>	<b>37,725,000</b>	<b>25,168,444</b>		<b>67%</b>
I 管理費	1,000,000	2,463,053		246%
II 事業費	36,725,000	22,705,391		62%
1-1. 被災地支援活動 (自主)	350,000	-		0%
1-2. 被災地支援活動 (復興庁CDN事業)	14,938,000	10,177,505		68%
2-1. 広域避難者支援活動 (自主)	400,000	0		0%
2-2. 広域避難者支援事業 (福島県)	20,837,000	12,527,886		60%
2-3. 広域避難者支援活動 (タケダ赤い羽根)	-	0		-
3. 交流・検証活動	200,000	0		0%
4. 予備費	-	0		-
<b>【収支】</b>	<b>-907,000</b>	<b>-1,165,264</b>		<b>128%</b>
【収入 (a)】	36,818,000	24,003,180		65%
【支出 (b)】	37,725,000	25,168,444		67%
前期繰越金	2,065,579	2,065,579		100%
収支差額	-907,000	-1,165,264		128%
次期繰越金	1,158,579	900,315		78%



東日本大震災支援全国ネットワーク (JCN)  
2020年度 監査報告

東日本大震災支援全国ネットワーク (JCN) より提出された

2020年度収支決算

2020年度貸借対照表

を監査した結果、いずれも正確にして、適法であることを認めます

2021年 5 月 21 日

監事

脇坂誠也



東日本大震災支援全国ネットワーク (JCN)

2020 年度 監査報告

東日本大震災支援全国ネットワーク (JCN) より提出された

1. 2020 年度事業報告書

を監査した結果、いずれも正確にして、適法であることを認めます

2021 年 5 月 24 日

監事

齋藤 潤



2021年度 JCN年次総会  
審議資料2-1

ずっと、つづく支援を。



東日本大震災支援  
全国ネットワーク

2021年度 活動計画 案  
[期間：2021年4月1日～2022年3月31日]

## はじめに

今年度の事業計画の策定にあたって

ご承知の通り、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、東日本大震災の支援活動にも大きな影響を与え続けています。災害公営住宅では、見守り活動を自粛せざるを得ない中で孤独死が発生しました。感染拡大防止と支援をどう両立させるかが大きな課題となっています。また、昨年度は「震災から 10 年」ということで、特に 3 月は連日にわたって報道が展開されました。忘れてはならないこと、学ぶべきことがまだ数多くあることを社会に強く印象付けた一方で、あまりに瞬間的で、いささか騒ぎすぎだったという印象もぬぐえません。10 年はあくまで通過点であり、むしろ「次の 10 年」を鑑みた時、社会全体がますます高齢化へと進行する中で、元来東北が抱えていた過疎化はさらに加速することになるのでしょうか。たとえコロナ禍が終息したとしても、鉄の扉の中の被災者の孤立・孤独はますます深刻化しないか、また、「私たちの存在がまるでなかったかのようにされることが一番つらい」と語る広域避難者が、いよいよ行き場を失うのではないかという危惧が付きまといまいます。こうした事態を防ぐためには、NPO を含めた草の根による支援がより重要性を増すことは言うまでもありません。まずは、東日本大震災の 11 年の姿について、現地関係団体等と連携しながら、現状をお伝えし、諸々の課題解決のために互いにできることを考える機会づくりを行い、全国に発信したいと考えています。

そして、10 年の月日は、当時の子どもたちが、その間、それぞれの成長を遂げてきた時間でもあります。彼・彼女らが今何を感じているのか、今だからこそ語れることもあるのではないかと思います。それを同世代の若者に伝え、震災や原発事故について、より関心を寄せてもらい、次なる災害も見据えながら、自らの経験を、次の世代につなげる機会づくりも行いたいと思っています。

奇しくも、コロナ禍によってオンラインでの生活環境にも慣れてきました。昨年度の事業でも、現地には行けないが、オンラインなら参加できるとして、多様なセクターから世代を超えてご参加いただきました。今年度も、より多くの皆様と一緒に考えていただける場の提供に努めて参ります。他方、JCN がこれまで担ってきた様々な場づくりは、企画の段階から現地の関係団体と一緒に練り上げていくべきだと考えています。社会情勢が許す限り、できるだけ現地に赴き、ひざとひざを突き合わせて今後の在り方についてじっくり協議して参りたいと思っています。

いずれにしても、今年度も限りあるスタッフ体制と財源の中での対応となりますが、身の丈に合わせつつ、地道でも、中身の濃い活動に最大限尽力して参りたいと考えています。

引き続きのご理解とご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

東日本大震災支援全国ネットワーク (JCN)  
代表世話人 栗田暢之

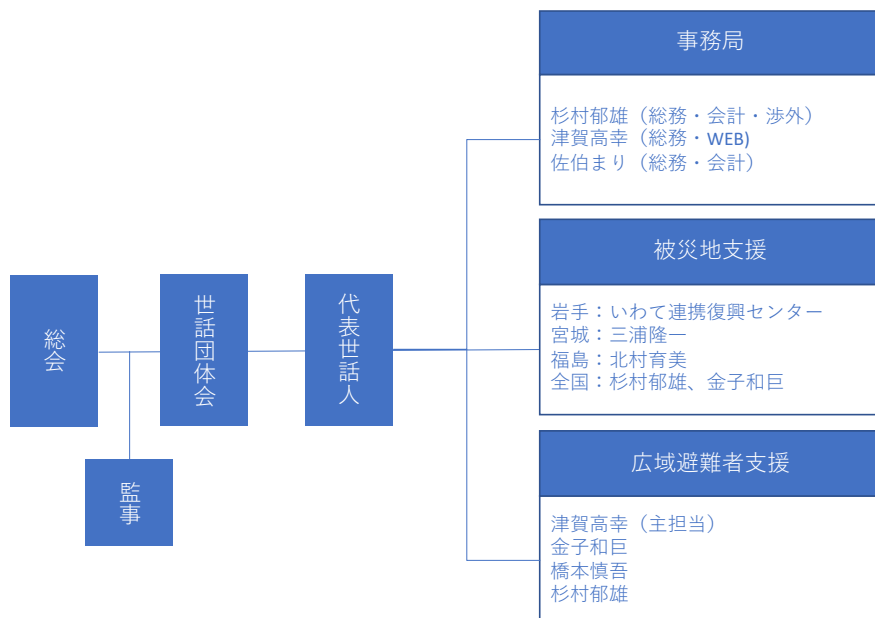
# 1. 活動の概要と目指す姿

## 1-1. JCN 活動の経緯

JCN は東日本大震災支援の発生以降、下記のようなフェーズを経てその活動を変遷してきた。

フェーズ 1 : 発災～3 ヶ月	<ul style="list-style-type: none"> <li>民間支援団体に、JCN への参加やメーリングリストでの情報交換、現地会議への参加などを呼びかける</li> <li>全国の民間支援団体を、セクターを超えたゆるやかなネットワークとして形成する。</li> <li>ネットワークのコンセプトは、政治色・宗教色・運動色等の、個別の理念や立場を越えたネットワーク。セクターを越えたネットワーク、出入り自由なネットワーク</li> <li>団体に、支援マインドの「拠り所」として認知してもらう</li> <li>団体に、連絡調整のための「仕組み」を提供するほか、支援状況の情報を収集し、発信する</li> </ul>
フェーズ 2 : 発災から3 ヶ月～3 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>団体に、連絡調整のための仕組みに参加することを促し、実際に顔を見せあう機会の提供を行い、関係をつくる</li> <li>被災地の状況、支援団体の状況、国や行政の動向等に関する情報の共有を図る</li> </ul>
フェーズ 3 : 4 年～5 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>構成団体間で共有された情報から、より具体的に課題解決のネットワークづくり、地域の団体と協働型で課題を解決する場をつくる</li> <li>広域避難者支援の状況把握、情報発信、体制強化のため、基盤をつくる</li> <li>被災地の状況を伝え、改めて「いま、できること」を考える場をつくる</li> </ul>
フェーズ 4 : 6～7 年目	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の団体との連携や地域巡回を継続し、「担い手支援」に現地ニーズを再発掘する</li> <li>被災地外のリソース活用、支援コーディネートを視野に入れて、全国域で多様な関わりから、「担い手」の育成やしきみづくり、環境づくりを考える機会を設ける</li> <li>広域避難者支援は、息の長い支援活動を実現するために、活動の基盤強化、地域の体制強化などの取組支援を推進する</li> </ul>
フェーズ 5 : 8～9 年目	<ul style="list-style-type: none"> <li>復興財源がなくなったあとの支援のあり方、方向性を検討する</li> <li>被災者・避難者の置かれている状況の再確認、各地の支援状況の把握</li> <li>担い手同士のネットワーク拡充、新たなネットワークづくりのサポート</li> </ul>
フェーズ 6 9～10 年目	<ul style="list-style-type: none"> <li>東日本大震災の今や課題を知り、全国でともに考える機会づくりを行う</li> <li>東日本大震災を次の世代へとつなぐ場をつくる</li> <li>広域避難者の支援を地域で取り組めるよう体制の強化を図る</li> </ul>
フェーズ 7 10～11 年目	<ul style="list-style-type: none"> <li>東日本大震災の現状を東北の団体と全国に発信し、考える機会づくりを行う</li> <li>東日本大震災を全国にいる次の世代へと繋げる</li> <li>広域避難者の理解醸成を進めるとともに地域ごとの持続可能な体制を検討する</li> <li>具体的な課題解決のための実験的な事業を検討・実施する</li> </ul>

### 【2021 年度の体制】



## 2. 被災地支援活動

### 2-1. 背景・目的（東日本大震災のこれからを考える）

発災より多くの時間が経過し、東日本大震災の課題も徐々に様変わりしてきました。震災が起因ではあるが、困窮的課題、孤立化の課題、子どもが抱える課題、復興まちづくりの課題など、より平時への課題へと移行しています。全国にはこれらの課題に取り組む団体が多く存在し、外部の視点や示唆を共有し、改めて、東北の団体とともに新たな価値を生み出す場が必要と考えています。また、震災当時、小中高生だった若者が大人へと成長する過程で、震災当時のことを徐々に整理し、話せるようになってきています。こうした若者の話を聞く機会は多くなく、貴重な話であり、今まさに伝える必要のあることである。次の世代に東日本大震災をつなぐためにも同世代の若者や教育の現場につなぐ場が必要と考えています。

### 2-2 実施事業

#### ①全国で東北の現状を知り、全国の知恵やリソースを繋げる活動（3.11の今がわかる会議）

東北の団体とともに、日本で考えるべき課題を明らかにしながら、その分野で活動している団体とともに課題を解決するために議論を深める場を設ける。

- ▼対象：東日本大震災の支援団体、その分野で活動する団体
- ▼内容：テーマごとに会議の場を設け、課題について議論を行う

#### ②東日本大震災を次の世代につなげる活動（3.11ユースダイアログ）

東日本大震災当時小中高生であった、若者の話を、同世代に聞く場を設け、東日本大震災を次の世代に繋げるとともに他者理解を促進する場を関連団体と作る。

- ▼対象：被災経験のある若者と東京圏・東海圏の若者
- ▼内容：東日本大震災の経験談や感じたことをもとに参加者と対話を行う

### 2-3. 事業成果

#### ①全国で東北の現状を知り、全国の知恵やリソースを繋げる活動（3.11の今がわかる会議）

- ・分野ごとに活動する団体と議論を深めることで、課題の解決の方向性などが明らかになっている
- ・東北の団体とともに、全国に東日本大震災の現状を伝える場が作られている
- ・オンラインによる会議を開催し、全国からより多くの人が参加している

#### ②東日本大震災を次の世代につなげる活動（3.11ユースダイアログ）

- ・大学や中高生向け（教育現場）にユースダイアログが開催されている
- ・次の世代を担う若者が東日本大震災について関心を示すきっかけになる。
- ・同世代の若者が東日本大震災を経験した同世代の若者の話を通じて、他者理解について理解されている

### 2-4 実施体制

#### ○JCN内の体制

岩手県：NPO法人いわて連携復興センター  
 宮城県：三浦隆一  
 福島県：北村育美  
 東京都：杉村郁雄、金子和巨

#### ○主な連携先など

岩手県：NPO法人いわて連携復興センター  
 宮城県：一般社団法人みやぎ連携復興センター、みやぎ広域支援団体連携担当者会議  
 福島県：一般社団法人ふくしま連携復興センター、NPO法人ジャパン・プラットフォーム  
 愛知県：NPO法人レスキューストックヤード  
 東京都：東京ボランティア・市民活動センター／東京災害ボランティアネットワーク

### 3. 広域避難者支援活動

#### 3-1 背景

##### 避けなければならない避難者の課題

##### 社会的孤立

- ・ どうしてよいかわからない
- ・ 知り合いが近くにいない
- ・ 日常生活で人に会わない

##### 相談の不成立

- ・ どこに相談したらよいかわからない
- ・ 相談する先がない
- ・ 望んだ支援が受けられない
- ・ 相談しないとあきらめる
- ・ 支援を希望しない・受けたくない

##### 受入自治体 / 専門機関の課題

##### 認識不足

- ・ 法制度を知らない
- ・ 避難者の置かれている状況を知らない

##### 支援団体の課題

##### スキル不足

- ・ どこまで対応してよいかわからない
- ・ つなぎ先がわからない

##### 関係性希薄

- ・ 自治体・専門機関・支援団体相互の関わりが少ない
- ・ つなぎ先との関係構築がうまくいかない

##### 制度の限界

- ・ 避難者名簿が共有できない
- ・ 避難者支援に使える制度がない

##### 体制脆弱

- ・ 組織体制が整わない
- ・ 活動財源が限られている

##### 対応の限界

- ・ 避難者名簿が正確ではない
- ・ 相談があっても対応できない

##### 対応の限界

- ・ 避難者の正確な状況がつかめない

#### 3-2. 目的

各地域の継続的な支援体制の維持のためには、以下の環境整備を全国各地の支援団体と連携して、事業を実施していくこととする。

- ①核となる支援者（支援団体）同士の信頼関係づくり
- ②避難者および支援への理解醸成、ゆるやかなつながりづくり
- ③課題解決のための実験的な事業の検討・実施

#### 3-3. 実施事業

##### ①自主事業

###### ▼目的

全国規模のネットワークを活かした情報交換の場を設ける

（今後の広域避難者支援のあり方、方向性について、支援実務者、関係者と協議する機会とする）

###### ▼概要

全国域のネットワークを活かし、各地の避難者支援に取り組む団体、行政、専門機関などを集め、現状や課題などを共有し、これからの活動のあり方を展望する場を設ける（年1回程度・オンライン）。

##### ②福島県「県外避難者事業運営支援業務」

###### ▼目的

避難者の環境の変化に応じて、地域ごとに避難者支援の体制構築、強化を推進する

### i) 地域巡回員の配置

全国 10 ブロック程度に地域巡回員を配置し、各地域における「避難者支援の現状把握」「支援のネットワーク強化・拡充」「支援のための具体的な体制検討」等を実施していく。

#### 【地域巡回員候補】

地域	団体名
北海道 (北海道)	JCN
東北 1 (青森、秋田、岩手)	あきたパートナーシップ
東北 2 (岩手・山形・宮城)	JCN
関東 1 (茨城)	ふうあいねっと
関東 2 (群馬、栃木、埼玉、千葉)	JCN
関東 3 (神奈川、山梨、長野)	山梨県内避難者と支援者を結ぶ会
関東 4 (東京)	広域避難者支援連絡会 in 東京
新潟 (新潟)	JCN
北陸 (富山、石川、福井)	石川県災害ボランティア協会
東海 (三重、岐阜、静岡、愛知)	レスキューストックヤード
関西 1 (滋賀、京都)	和
関西 2 (大阪、兵庫、奈良、和歌山)	まるっと西日本
中国 (鳥取)	とっとり震災支援連絡協議会
中国 2 (岡山)	ほっと岡山
中国 3 (広島、山口、島根)	ひろしま避難者の会アスチカ
四国 (愛媛、徳島、香川、高知)	えひめ 311
九州 1 (福岡、佐賀、長崎、熊本)	ふくおか市民ネット
九州 2 (宮崎、大分、鹿児島)	うみがめのたまご 311 ネットワーク
沖縄	福島避難者のつどい沖縄じゃんがら会

各ブロックの担当は、団体間で協議し、分担する。

避難者数の多い 10 都府県に配置されている福島県避難者支援課駐在員との情報交換も行い、各地域の状況把握や対応なども協議する。

### ii) 関係者会議の開催

目的：会議を通じた地域巡回員同士の信頼関係づくり

全国にネットワークを持つ組織とのゆるやかなつながりづくり

地域での課題解決のための事業検討 (方向性検討)

頻度：年 6 回 (5 月、7 月、9 月、11 月、1 月、3 月頃) を予定。

方法：オンライン実施 (Zoom)

内容：地域巡回員の役割検討／各地域の現状共有／具体的な対応策の検討／

そのほか、全国組織・ネットワーク団体、避難者・被災者支援、マイノリティ支援等に関わる実践者、研究者などをゲストスピーカーに招き、話題提供・情報交換も行う。

### iii) 避難者支援連携強化会議の実施

地域巡回員の検討した状況整理をもとに、各地域において支援の担い手となる (なりうる) 自治体や関係機関等が参加し、避難者支援に係る課題や今後求められる機能、役割などを話し合う機会を設け、社会資源との連携を強化する。令和 2 年度に実施した支援連携強化会議や調査結果などを踏まえて、地域巡回員と連携して、企画・調整を行う。

目的

ア) 避難者・避難者支援に関する理解醸成

イ) 課題解決のための実験的な事業の検討・実施

回数：概ね 10 地域程度で実施する予定



### iii) 復興支援員研修の実施

各地の取組状況などをふまえて、復興支援員や生活再建支援拠点の能力向上のための研修を行う。企画・実施にあたっては、復興支援員のニーズを把握し、話題提供や情報提供なども検討する。

目的：核となる支援者（支援団体）同士の信頼関係づくり

実施概要：回数 2 回程度

話題提供など全体で情報を共有する機会のほか、参加者同士の意見交換も行う。話し合った内容はとりまとめて、後日参加者にフィードバックする

## 3-4 活動概要の比較

2020 年度		2021 年度
自主事業（継続） ➤ 全国ミーティング	⇒	自主事業（継続） ➤ 全国ミーティング
福島県事業 ➤ 地域巡回員の配置 ➤ 関係者会議の実施 ➤ 避難者支援連携強化会議の実施 ➤ 復興支援員研修の開催	⇒	福島県事業 ➤ 地域巡回員の配置 ➤ 関係者会議の実施 ➤ 避難者支援連携強化会議の実施 ➤ 復興支援員研修の開催

## 3-5. 事業成果

### ①自主事業

全国の関係者が集まる機会を設け、広域避難者支援の共通認識、目指す方向性などを関係者とともに考え、展開していく機運をつくる。

### ②福島県「県外避難者支援運営業務」

各地の核となる団体・担い手を中心に、広域避難者支援の体制強化を進め、避難者の社会的孤立・相談の不成立を回避するための対応や、受入自治体・支援団体等の課題が少しでも解決するような事例を創り出す。

## 3-6. 体制

- ・津賀高幸（事務局も兼務）
- ・杉村郁雄（事務局も兼務）
- ・橋本慎吾
- ・金子和巨
- ・佐伯まり（事務局も兼務）
- ・地域巡回員（各地の支援団体 16 名程度、必要に応じて被災地支援担当もフォローする）

## 4. 交流・情報発信活動

### 4-1. 背景・目的

昨年度実施した10年企画（Voice from 3.11）では、被災者、避難者、支援者から多くの生の声が集まりました。集まった生の声から、今後私たちが大切すべきことや残していきたいことを見出すことで、東日本大震災の意義をこれからも考え続ける機会とする。また、10年の経過とともに、東日本大震災において、NPOや広域の中間支援団が果たした役割などを考える場を作り、発信する。

### 4-2. 実施事業

#### (1) Voice from 3.11 への参画（自主事業）

- ・300近く集まった声を丁寧に読み解き、大切なことや考えるべきことを紡ぎ出す場を作り、宣言を行う。
- ・引き続き実行委員会／事務局として参画することで、Voice from 3.11の活動を広める

#### (2) JVOAD 全国フォーラムにおける分科会への参画（自主事業）

- ・改めて、東日本大震災においてNPOや広域の中間支援が果たした役割を考える場とする
- ・今後の東日本大震災や今後の災害に対する支援の方向性を考える場とする

### 4-3. 事業成果

#### (1) 震災10年企画

- ・宣言を生み出すプロセスに多くの関連団体を巻き込んでいる
- ・被災者や避難者の生の声から、紡ぎ出した宣言を広く発信できている

#### (2) JVOAD 全国フォーラムにおける分科会への参画

- ・今後の東日本大震災や今後の災害におけるNPOの役割や有用性が明らかになっている

### 4-4. 体制

- ・杉村郁雄（被災地支援担当、広域避難者支援担当、事務局を兼務）
- ・津賀高幸（広域避難者支援と事務局を兼務）
- ・金子和巨（被災地支援担当、広域避難者支援担当、事務局を兼務）
- ・橋本慎吾（広域避難者支援担当も兼務）

## 5. 事務局運営

### 5-1 背景

設立から2年目に始まった現在の体制からこれまでの間、「後方支援活動」として事務局の総務担当と渉外、風化防止などをまとめて担ってきた。10年目以降のJCNの方針や体制に対する支援も必要となる。

### 5-2 目的

- ①事務局機能の効率化をはかりつつ、これまでの機能を継続する
- ②外部からの問い合わせ等に対応する
- ③10年目以降の方針や体制に対する事務的な機能を果たす

### 5-3 実施事業

- ①参加団体の入退会を手続きする（通年）
- ②ウェブページを更新する（通年）
- ③メーリングリストを維持する
- ④総会を開催する（年1回）
- ⑤世話団体会を開催する（年5回）
- ⑥会計
- ⑦外部からの問い合わせ
- ⑧10年目以降の方針に基づく体制づくり

### 5-4 事業成果

- ・事務局機能を維持することで、ネットワークが維持できている
- ・JCN 会員団体に被災地や広域避難者支援の状況を伝えることできている
- ・団体運営が適正に行われている

### 5-5 体制

- ・杉村郁雄（広域避難者支援担当、地域支援担当、交流事業も兼務）
- ・津賀高幸（広域避難者支援担当、交流事業も兼務）
- ・金子和巨（広域避難者支援担当、交流事業も兼務）
- ・佐伯まり（総務・会計）

2021年度 JCN年次総会  
審議資料2-2

ずっと、つづく支援を。



東日本大震災支援  
全国ネットワーク

2021年度 収支予算 案

[期間：2021年4月1日～2022年3月31日]

## 東日本大震災支援全国ネットワーク (JCN)

2021年度 予算計画試案 (期間：2021年4月1日～2022年3月31日)

<b>【収入】</b>	29,303,492
1. 寄付収入	50,000
2. 助成金収入	10,487,892
3. 事業収入	18,765,600
4. その他収入	-
<b>【支出】</b>	29,893,492
(1) 人件費	9,651,500
(2) 事務所費	930,000
(3) 通信運搬費	279,200
(4) 旅費交通費	1,914,000
(5) 消耗品費	334,400
(6) 会議費	550,000
(7) 外注費	15,417,192
(8) 謝金	615,200
(9) 支払手数料	100,000
(10) 租税公課・雑費	102,000
予備費	
<b>【収支】</b>	
<b>【経常収入 (a)】</b>	29,303,492
<b>【経常支出 (b)】</b>	29,893,492
経常収支差額 (a-b)	-590,000
前期繰越金	900,315
収支差額	-590,000
次期繰越金	310,315

## 2021年度 予算計画試案 (期間: 2021年4月1日~2022年3月31日)

	2020年度		2021年度予算計画試案		備考
	実績		予算	前年実績比	
<b>【経常収入】</b>	<b>24,003,180</b>		<b>29,303,492</b>	<b>122%</b>	
1. 寄付収入	0		50,000	-	
企業	-		-	-	
NPO等団体	-		-	-	
一般個人	-		50,000	-	
その他	-		-	-	
2. 助成金収入	10,050,000		10,487,892	104%	
赤い羽根福祉基金	-		-	-	
復興庁CDN事業	10,050,000		10,487,892	104%	
その他	-		-	-	
3. 事業収入	13,829,518		18,765,600	136%	
福島県 (受託)	13,829,518		18,365,600	133%	
タケダ赤い羽根 (受託)	-		-	-	
ろうきん (受託)	-		-	-	
その他	-		400,000	-	Voice from 3.11事務局委託費
4. その他収入	123,662		-	0%	
<b>【経常支出】</b>	<b>25,168,444</b>		<b>29,893,492</b>	<b>119%</b>	
I 管理費	2,463,053		1,200,000	49%	委託費、返済利息、通信費、交通費等
II 事業費	22,705,391		28,693,492	126%	
1-1. 被災地支援活動 (自主)	-		0	-	
1-2. 被災地支援活動 (復興庁CDN)	10,177,505		10,487,892	103%	3.11会議、ユース会議
2-1. 広域避難者支援活動 (自主)	0		400,000	-	全国ミーティング
2-2. 広域避難者支援事業 (福島県)	12,527,886		17,405,600	139%	福島県事業
2-3. 広域避難者支援活動 (タケダ赤い)	0		-	-	-
3. 交流・情報発信活動	0		400,000	-	3.11 10年企画
予備費	-		-	-	
<b>経常収支差額</b>					
<b>【経常収入(a)】</b>	24,003,180		29,303,492	122%	
<b>【経常支出(b)】</b>	25,168,444		29,893,492	119%	
<b>経常収支差額 (a-b)</b>	<b>-1,165,264</b>		<b>-590,000</b>	<b>51%</b>	
前期繰越金	2,065,579		900,315	44%	
収支差額	-1,165,264		-590,000	51%	
次期繰越金	900,315		310,315	34%	

2021年度 JCN年次総会  
審議資料3

ずっと、つづく支援を。



東日本大震災支援  
全国ネットワーク

2021年度 代表世話人・世話団体・監事 改選案  
[期間：2021年4月1日～2022年3月31日]

## 2021 年度 役員の改選について

当ネットワーク規約では、代表の任期は1年で3名程度、再任を妨げないとしています。世話団体の任期は1年で10団体程度、再任を妨げないとしています。同様に監事の任期は1年で2名程度、再任を妨げないとしています。

以上の確認事項に基づき、代表世話人、世話団体、監事を次のように推薦します。

## ■再任代表世話人候補（※五十音順）

栗田 暢之	認定特定非営利活動法人 レスキューストックヤード
山崎 美貴子	東京災害ボランティアネットワーク

## ■再任世話団体候補（※五十音順）

特定非営利活動法人 シーズ・市民活動を支える制度をつくる会
社会福祉法人 中央共同募金会
東京災害ボランティアネットワーク
特定非営利活動法人 日本 NPO センター
日本生活協同組合連合会
公益社団法人 日本青年会議所
公益財団法人 日本 YMCA 同盟
「広がれボランティアの輪」連絡会議
公益社団法人 ユニバーサル志縁センター
特定非営利活動法人 レスキューストックヤード
特定非営利活動法人 ジャパン・プラットフォーム

## ■再任監事候補

齊藤 誠	齊藤弁護士事務所
脇坂 誠也	脇坂税務会計事務所